授業科目	地域文化入門						
担当教員	地域文化学科専任教員						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M3020010
免許資格 関連事項							

授業の概要	地域文化学科の学びの入門として、地域文化の学びの体系と意義、「発見」「体験」「活用」の学び、広く日本文化・国際文化について学ぶことの重要性を理解し、地域文化学科での４年間の学びの指針を見出すことを目標とする。地域文化学科教員がオムニバス形式で担当し、本学における〈地域文化学〉とは何かについて講義する。大学での学びの入門として、できるだけ具体的に分かりやすく説明し、学生の関心と意欲を引き出す。（オムニバス方式／全８回）
授業の 到達目標	
授業計画	【岩田英作／1 回】〈地域文化学〉の体系と意義 地域文化学の学びの体系と意義、特に島根をモデルとして地域文化について学ぶことの意義について講義する。 【マユーあき／1 回】グローバル化と地域文化 地域文化を学ぶ上でグローバルな視点を持つことの意義について講義する。 【藤居由香、中野洋平／1 回】（共同）地域文化の「発見」 地域文化へのアプローチの第一段階として、地域文化に対する知識を蓄え、文化の魅力を発見することの意義について講義する。 【Lange Kriss Alexander、石井大輔／1 回】（共同）地域文化の「体験」 島根をフィールドに文化を五感で感じとり、体験的に理解を深めることの意義について講義する。 【工藤泰子、竹田茉耶／1 回】（共同）地域文化の「活用」 地域文化の「活用」方法について、観光まちづくりを手がかりに学ぶことの意義について講義する。 【杉岳志、高橋純、山村桃子／1 回】（共同）地域文化と日本文化 地域文化を学ぶ上で、「日本の文化と歴史」「日本語」「日本の文学」について学ぶことの意義について講義する。 【塩谷もも、田中芳文、松浦雄二／1 回】（共同）地域文化と国際文化 地域文化を学ぶ上で、「異文化の理解」「英語とコミュニケーション」「海外の文学」について学ぶことの意義について講義する。 【増原善之、木内公一郎、小柳正司、古賀洋一／1 回】（共同）まとめ グループワークによって、本科目を振り返り、地域文化の４年間の学びについて、各自のビジョンを明確にする。
テキスト	
参考文献	
評価方法	
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	地域文化論Ⅰ（小泉八雲）						
担当教員	小泉凡						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M3020020
免許資格 関連事項							

授業の概要	山陰地方にゆかりの深い作家、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の生い立ち・思考・主要作品への理解を深めるとともに、八雲を文化資源として現代社会に活用する重要性について理解することを目標とする。授業では『知られぬ日本の面影』の講読や現地見学により、八雲の地域文化の観察態度と描写の特色を探究する。また、近年、世界の八雲ゆかりの地で顕著にみられる、八雲の資源化の動きについて、授業担当者が携わった事例をもとにその意義を説く。
授業の 到達目標	１．小泉八雲のおいたち・精神性・作品形態の特色など基本情報を理解し、説明することができる。 ２．小泉八雲がどのようなまなざしで山陰地方の地域文化を観察・描写したか、また現代社会において八雲の事績を活用することの意義を説明することができる。 ３．小泉八雲記念館・旧居やゆかりの地訪問を通し、八雲の文化資源としての活用について、具体的な意見を述べることができる。
授業計画	（講義 28 時間、演習 2 時間） 第１回　小泉八雲の世界半周の片道切符旅～スライド・プレゼンテーション～ 第２回　主要作品概説～文学形態の特徴（翻訳・ルポルタージュ紀行・再話文学）～ 第３回　「耳の文学」①；「神々の国の首都」におけるサウンドスケープ 第４回　「耳の文学」②：八雲の民族音楽へのまなざし 第５回　落日の描写にみる八雲の自然観～「神々の国の首都」「真夏の熱帯行」～ 第６回　八雲を魅了した松江の魅力（風景の影・伝統文化・西洋料理・裏切らない人たち） 第７回　八雲における松江の意味～NHK アーカイブス「再発見小泉八雲の世界」を中心に～ 第８－９回　現地研修～小泉八雲記念館・旧居・城山稲荷神社～ 第 10 回　出雲大社昇殿と神道の理解～「杵築」～ 第 11 回　八雲と怪談①～「耳なし芳一」の再話をめぐって～ 第 12 回　八雲と海の文学～「潜戸」「焼津にて」ほか～ 第 13 回　八雲とボナー・フェラーズ～八雲文学の戦後日本への影響～ 第 14 回　八雲の今日的意味～自然との共生・防災・教育への提言～ 第 15 回　まとめと展望：八雲文学の特色と文化資源として活かす八雲の可能性
テキスト	授業で、プリントを適宜配布する。
参考文献	ラフカディオ・ハーン著・池田雅之訳『新編　日本の面影』角川ソフィア文庫
評価方法	平常点（授業態度・コメントカード）（30%）、現地研修への参加とレポート（30%）、期末課題（40%）
自己学習に 関する指針	授業中に紹介した参考文献を積極的に読むことが望ましい。
履修上の 指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、小泉八雲記念館の館長としての業務経験を生かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	地域文化論Ⅱ（出雲）						
担当教員	工藤泰子、杉岳志、山村桃子、ダスティン・キッド、錦田剛志						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020030
免許資格関連事項							

授業の概要	文化学、神話学、歴史学、観光学の専門的立場から講義をおこない、地域の歴史と文化について学ぶことを目的とする。まず、古代より継承される出雲の文化を、神道、神話、神楽といった事項を通して理解する。また近世の松平不昧や松江城の歴史について触れ、近現代における観光の面からも把握をおこなう。さらにこれらの知識をふまえて、佐太神社・鹿島歴史民俗資料館・松江城を見学し、体験を通して、地域文化の継承のあり方を学ぶ。最後には、英語による出雲文化のまとめをおこない、出雲文化の魅力を広く伝えることができるようにする。
授業の到達目標	松江・出雲の歴史と文化について説明できるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス・出雲の神道を通した出雲文化の魅力（担当：キッド） 第２回　出雲の観光（担当：工藤） 第３回　近代出雲の観光（担当：工藤） 第４回　出雲大社と観光（担当：工藤） 第５回　松江城（担当：杉） 第６回　【ＦＷ１】松江城見学（土日） 第７回　松江の文化（杉） 第８回　出雲神話（担当：山村） 第９回　国引き神話（担当：山村） 第 10 回　神在月について（担当：キッド） 第 11 回　万九千神社の神在祭～奉仕者の立場で考える神話と祭祀の原風景～（担当：錦田剛志氏／万九千神社宮司） 第 12 回　神楽（担当：山村） 第 13 回　【ＦＷ２】佐太神社・鹿島歴史民俗資料館見学 第 14 回　出雲の文化を英語で語る①（担当：キッド） 第 15 回　出雲の文化を英語で語る②（担当：キッド）、発表「私と出雲文化」
テキスト	授業中に資料を配付する
参考文献	授業中に指示する
評価方法	期末レポート（50%）、毎回のコメントシートと発表（50%）
自己学習に関する指針	授業中に紹介した本は積極的に読み、期末レポートの考察に活かしてください。
履修上の指導・留意点	・学外見学は①②の選択制です。また、バス代を徴収する場合があります。 ・ＦＷを欠席する場合、必ず事前に連絡してください。

授業科目	地域文化論Ⅲ（山陰）						
担当教員	中野洋平						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020040
免許資格 関連事項							

授業の概要	地域社会にはさまざまな文化が展開しています。特に人々の生活に根ざした民俗文化は、地域文化の理解に欠くことができません。この講義では、社会集団、通過儀礼、祭り、信仰、芸能、伝説、たたら、といった観点から、山陰地域の民俗文化を学びます。これにより、より深い山陰地域の文化理解を目指します。
授業の 到達目標	（１）山陰地域の民俗文化の諸相を理解することができる。 （２）授業で得た知識をもとに自ら山陰地域の民俗文化を捉えることができる。 （３）民俗文化を通して、積極的に山陰地域の文化に関心を持つことができる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　民俗文化と山陰地域での偏差 第３回　生きて行くために必要なつながり―山陰地域における暮らしなかの社会集団 第４回　人は社会的に変化する―山陰地域における人の一生と通過儀礼 第５回　祭りと地域社会Ⅰ―山陰の神社祭祀 第６回　祭りと地域社会Ⅱ―山陰の仏教民俗 第７回　日常のなかの祈りⅠ―山陰地域の荒神祭祀 第８回　日常のなかの祈りⅡ―盆行事にみる祖霊信仰 第９回　人々を魅了する民俗芸能Ⅰ―生業とともにある花田植 第 10 回　人々を魅了する民俗芸能Ⅱ―神楽の歴史 第 11 回　人々を魅了する民俗芸能Ⅲ―神楽の現在 第 12 回　伝説と地域―国引き神話、その後 第 13 回　たたら文化Ⅰ―たたら製鉄と山陰 第 14 回　たたら文化Ⅱ―たたらをめぐる文化 第 15 回　民俗の現在
テキスト	授業中に配布します。
参考文献	特になし。
評価方法	小レポート（40%）、最終レポート（60%）
自己学習に 関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の 指導・留意点	・できるだけ教室の前から詰めて着席しましょう。 ・グループでディスカッションを行うことがあります。

授業科目	地域文化論Ⅳ（地域資源）						
担当教員	藤居由香						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020050
免許資格 関連事項							

授業の概要	地域の文化を再発見する手がかりとして地域資源に注目する。地域資源自体は多岐に渡るが、共通項は空間的に他地域への移転が難しい点にあるため、その土地ならではの地域特性を踏まえた上で資源を理解することを目標とする。 地域資源の維持や利用には住民相互に資源の価値観を共有する必要があり、例えば地域資源の一つである文化財を単体として見るよりも、歴史的風致のように広域にわたる良好な地域生活環境を形成する要素として捉える視点から学ぶ。 また、学生自身がこれまで気付いていなかった地域資源の価値を発信する表現力の養成も目指す。 （講義 24 時間、演習 6 時間）
授業の 到達目標	【目的】 ・文化の発見を、地域資源から捉えるために、歴史・環境・生活から資源を探し、地域（山陰・出雲圏・地域産物）との密接な関わりから学ぶ。さらに発見した地域資源を発信するスキルを学ぶ。 【目標】 ・三つの着眼点から地域資源の価値に気付き、さらに他者へ伝達することを目標とする。 ・訴求効果と説得力のあるＣＡＤや描画ソフトを駆使したプレゼンテーション技術を身に付ける。
授業計画	第１回　地域の価値ある資源を学ぶ意味と地域資源を発見するための要素 第２回　歴史文化資源①　景観 しまね景観賞 25 年の歴史（棚田・桜・橋・ダム・建築・維持管理活動） 第３回　歴史文化資源②　町並み 伝統的建造物群保存地区（鳥取:倉吉･所子　島根:大森･温泉津･津和野） 第４回　歴史文化資源③　建造物 木造；国宝神魂神社（桃山）・RC；日本銀行松江支店（戦前） 第５回　地域資源に特化した展示施設 仁摩サンドミュージアム・来待ストーンミュージアム 第６回　環境文化資源①　石材 出雲石灯籠・礎石（来待石・大根島石）・美保関（灯台・青石畳）・めのう 第７回　環境文化資源②　木材 国重要文化財仏像（佛谷寺）・黒柿製の工芸品・杉柱松梁の建築物 第８回　環境文化資源③　土材　　＜学外演習＞ 瓦（石州赤瓦・いぶし銀黒瓦）・抹茶茶碗（布志名焼・田部美術館） 第９回　環境文化資源④　金属 青銅）荒神谷遺跡　鉄）奥出雲文化的景観　特殊鋼）日立金属和鋼博物館 第 10 回　地域資源に関する学生の調査及び発表事例 ＪＲ西日本山陰みらいドラフト会議・島根県ＰＢＬ事業 第 11 回　生活文化資源①　農村・山村の「建造物＋農産物」 農家住宅リノベーション事例邑南町里山レストラン 第 12 回　生活文化資源②　街道筋の「町並み＋土産物」 平田木綿街道　生姜糖・日本酒 第 13 回　生活文化資源③　漁村の「景観＋登録文化財」 登録文化財美保関灯台ビュッフェ　オーシャンビュー 第 14 回　地域資源の発信方法とスキル修得 （３ＤＣＡＤや描画ソフトによるマップ・サインのデザイン） 第 15 回　プレゼンテーションのためのＩＣＴ技術と操作方法 （非言語インフォグラフィックス化）
テキスト	「グリーンライフ」千賀裕太郎・糸長浩司・落合基継・土屋俊幸・中島正裕・山路永司、実教出版、2020
参考文献	「改訂版 図説 やさしい建築材料」松本進、学芸出版社、2019 「地域振興としての農村空間の商品化」田林明、農林統計出版、2015
評価方法	身近な地域の価値ある資源を発見し、その魅力を提案する「誇れる地域資源の発信」図表レポート作成

	（70%）及び発表（30%）の二つに分けて評価する。
自己学習に関する指針	・地域の材料資源に興味関心を抱き，科学的な視点が身につくように心がけること。
履修上の指導・留意点	*学外研修を土日祝に１回実施予定 2018 年度入学生；仁摩サンドミュージアム（砂・ガラス）・平田木綿街道の町並み景観 2019 年度入学生；荒神谷博物館（銅鐸・銅鉾）と遺跡・出雲玉作資料館（瑪瑙・布志名焼） 2020 年度入学生；学生居住地の近隣に立地する施設で各々実施 2021 年度入学生；石州瓦メーカー調整中 **パソコンを使った描画作業あり ※公務員/まちづくり/地域資源/住宅に関わる企業等への就職を考えている学生は履修が望ましい。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、住宅関連企業での勤務経験を活かして，商品及びサービスの販売と消費に関して「Business to Consumer」を意識した授業を展開する。

授業科目	しまね文学探訪						
担当教員	岩田英作、岡部康幸						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020060
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	島根を舞台にした文学作品を読み、作品の舞台となった土地・場所のいくつかにも実際に足を運び、作品と現実の風景との比べてみる。多くの学生が作品の感想を語ることができるような授業にし、学生には多様な読解のあることに気付いてもらいたい。同時に、作品の舞台については、その歴史や景観を中心に講義し、時には同じ場所を取り上げた別の作品も援用しながら、その場所が持つ独特の雰囲気を伝えたい。事前学習の後、出雲と石見に１回ずつフィールドワークに出かけ、まとめの発表会を行う。
授業の 到達目標	①島根ゆかりの近代文学作家・作品について、基礎的な知識を修得する。 ②フィールドワークを通して作家・作品について体験的・実感的に理解を深める。 ③島根の風土と文学とのかかわりについて理解を深める。
授業計画	第１回　ガイダンス　島根県の風土と文学 第２回　出雲にゆかりのある作家と作品概説 第３回　水辺の文学：小泉八雲、志賀直哉、芥川龍之介 第４回　加賀の潜戸と文学：木下利玄、入沢康夫、田辺聖子 第５回　水辺の文学を訪ねる（松江堀川周辺） 第６回　加賀の潜戸の文学を訪ねる（島根半島） 第７回　水辺・加賀の潜戸の文学を訪ねる（発表） 第８回　石見・隠岐にゆかりのある作家と作品概説 第９回　斎藤茂吉と石見・鴨山 第 10 回　森鷗外と津和野 第 11 回　石見・鴨山の文学を訪ねる①（浜田、湯抱） 第 12 回　石見・鴨山の文学を訪ねる②（益田） 第 13 回　津和野の文学を訪ねる①（津和野の歴史と風土） 第 14 回　津和野の文学を訪ねる②（森鷗外記念館・旧居） 第 15 回　鴨山・津和野の文学を訪ねる（発表） 定期試験
テキスト	松江文学への旅（藤岡大拙編）
参考文献	ふるさと文学館第 38 巻島根（寺本喜徳編）、新山陰小説風土記（小糠・西尾・岡部著）
評価方法	発表２回（50%）と期末の試験（50%）を総合して評価する。
自己学習に 関する指針	講義で取り上げる作家・作品について、積極的に調べたり作品を読んだりすることが望ましい。
履修上の 指導・留意点	2 回のフィールドワークでは、入館料などいくらか実費を伴う。 島根で国語教員を目指す学生には履修を特に勧める。

授業科目	しまね歴史探訪						
担当教員	杉岳志						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020070
免許資格 関連事項							

授業の概要	講義・フィールドワーク・グループでのプレゼンテーションにより、島根県を構成するかつての出雲国・石見国・隠岐国の歴史について学修する。今日の地域の枠組みは近世に形成されたことから、授業では旧出雲国の松江藩、旧石見国の浜田藩・津和野藩を中心に取り上げる。フィールドワークは、江戸時代の城下町の雰囲気を色濃く残し、「美しい日本の歴史的風土 100 選」に選出されている松江において実施する。プレゼンテーションでは、各グループともフィールドワークを踏まえて松江の城下町を紹介する。
授業の 到達目標	１．島根の歴史について記述することができる。 ２．地域の歴史を自らの言葉で紹介することができる。 ３．授業の内容に対し、自分なりの疑問・感想を述べることができる。
授業計画	第１回　ガイダンス／歴史的にみた島根 第２回　古代・中世の出雲と石見 第３回　松江城下町①　松江城下町の歴史 第４回　松江城下町②　松江城下町の特徴 第５回　フィールドワーク　松江城下町 第６回　松江藩①　堀尾時代・京極時代 第７回　松江藩②　松平時代 第８回　松江藩③　松江藩の藩政改革 第９回　フィールドワーク　松江歴史館 第 10 回　浜田藩 第 11 回　津和野藩 第 12 回　隠岐の歴史 第 13 回　プレゼンテーション　１班～５班 第 14 回　プレゼンテーション　６班～１０班 第 15 回　まとめ 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布する。
参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	コメントシートの記述内容 15%、小テスト 15%、プレゼンテーション 30%、期末試験 40%の割合で評価する。
自己学習に 関する指針	・フィールドワークで回ることのできない場所も自主的に歩き、歴史の痕跡を見つけ出してください。
履修上の 指導・留意点	・履修希望者が 40 名を超える場合、人数を制限することがあります。 ・履修希望者は必ず初回の授業に出席すること。出席できない場合は事前に連絡してください。 ・フィールドワークは授業時間外に実施します。 ・質問はその内容に応じて授業時間中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	しまね民俗探訪						
担当教員	中野洋平						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020080
免許資格 関連事項							

授業の概要	島根県の地域に根付いた民俗文化を体験的に学ぶことを通して、地域社会や地域文化に対する理解を深めることを目的とする。県北部に位置する島根半島をフィールドとして、地域社会に多元的・重層的に展開する民俗文化を考察する。講義では、生活空間に相当する地域（集落）を単位とした社会や文化の捉え方を学び、島根半島を対象としたフィールドワークを通して主体的に地域を捉えていく。
授業の 到達目標	（１）島根半島の歴史と文化について理解することができる。 （２）巡検において自ら主体的に民俗文化を捉えることができる。 （３）巡検の成果を記録し、まとめることができる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　民俗資料と調査 第３回　調査実習内容の提示 第４回　調査実習地の概要 第５～７回　雲南市入間花田植え参加（5 月下旬日曜日） 第８回　調査実習の振り返り 第９回　調査実習内容の提示 第１０回　調査実習地の概要 第１１～１３回　松江市島根町巡検（6 月下旬の土日） 第１４回　調査実習の振り返り 第１５回　実習全体の振り返り
テキスト	授業中に配布します。
参考文献	なし。
評価方法	課題レポート　100%
自己学習に 関する指針	授業中に示す参考文献を積極的に読むこと。
履修上の 指導・留意点	調査実習は必須です。授業初回に日程を提示しますので注意してください。 地域文化論Ⅲ（山陰）を履修していることが望ましい。

授業科目	しまねのまちづくり						
担当教員	藤居由香						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	１・２	配当期	通年
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020090
免許資格 関連事項							

授業の概要	地域文化の体験として、地域の資源を学んだ上で、地域居住の課題解決のためにまちづくり実践に取り組み、まちのマネジメントの重要性を理解することを目標とする。 島根県内にみられる住生活支援及び都市計画上の課題である「伝統的町並み景観の保全（歴史まちづくり）」「店舗と買い物環境の改善（消費生活まちづくり）」「大地震への備え（防災まちづくり）」の三点について、自治体・地域の住民・専門家と連携し、実地実測調査やプロジェクトから検討する。 その成果を地域へプレゼンテーションする技術を身に付けるためにＣＡＤや描画ソフトのＰＣ操作演習も実施する。
授業の 到達目標	【目的】 島根のまちづくりについて、「歴史まちづくり」「消費生活まちづくり」「防災まちづくり」に関する実践を通して、計画策定とエリアマネジメント（居住地の維持管理）の重要性を学ぶ。 【目標】 ・まちづくりの実践体験として主に調査を行い、計画を立てるための基礎的な経験を積む。 ・将来のまちづくりコンサルタント業務を想定し報告書にまとめる技術を習得する。
授業計画	第１回【1 日目】学内：まちづくりの未来を、都市計画マスタープランから学ぶ 第２回【1 日目】学内：まちづくりの行政施策（景観・住宅・文化財・消費生活） 第３回【1 日目】学内：エリアマネジメントの重要性　物）施設維持管理　人）居住環境管理 第４回【2 日目】①歴史まちづくりの実践；地域資源の価値付けの方策 第５回【2 日目】（松江）：伝統的町並み景観の保全 第６回【2 日目】（松江）：歴史的風致維持向上計画 第７回【3 日目】②消費生活まちづくりの実践；地域資源の購買環境の検討 第８回【3 日目】（県西部）：商空間デザインの施設整備 第９回【3 日目】（県西部）：買い物弱者への支援と統計データ 第 10 回【4 日目】③防災まちづくりの実践；事前復興による安全確保 第 11 回【4 日目】（県東部）：避難所・仮設住宅の生活環境改善 第 12 回【4 日目】（県東部）：災害予防策検討 第 13 回【5 日目】学内：演習報告書作成；ＰＣ演習① 第 14 回【5 日目】学内：演習報告書作成；ＰＣ演習② 第 15 回【5 日目】学内：演習報告書作成；ＰＣ演習③
テキスト	『図解入門よくわかる最新都市計画の基本と仕組み　新しい「都市計画とまちづくり」の教科書』五十畑弘、秀和システム、2020
参考文献	「生活の視点でとく都市計画」薬袋奈美子・室田昌子・加藤仁美　彰国社　2016 「まちを読み解く―景観・歴史・地域づくり―」　西村幸夫・野澤康 編　2017
評価方法	しまねのまちづくり実践への取り組み（①～③各 20%＊3＝60%）及び演習報告書（40%）の二つに分けて評価する。
自己学習に 関する指針	・履修者で分担して行う作業があるため、他者と協力しながら学習を行う必要がある。
履修上の 指導・留意点	*この科目は一年秋学期から二年春学期にかけて土日祝と集中講義期間に不定期開講で学外研修あり 原則、一年次からの履修のみで、二年次からの履修は難しいため注意すること 授業内容と日程は学外研修受け入れ先の状況により変更になる可能性があります。 学外研修先：2018 年度入学生；松江市・出雲市・邑南町・NACS 2019 年度入学生；国土交通省中国地方整備局・松江市・江津市・第一生命保険 2020 年度入学生；経済産業省事業・安来市・美郷町 2021 年度入学生：調整中 **パソコンを使った作業あり ※公務員/まちづくり/地域資源/住宅に関わる企業等への就職を考えている学生は履修が望ましい。

	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、住宅関連企業での勤務経験を活かして，都市計画・農村計画のコンサルティング業務に関わる授業を展開する。

授業科目	しまね図書館学						
担当教員	木内公一郎、小南理恵						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020100
免許資格関連事項	○司書資格						

授業の概要	図書館が直面する課題を解決するための新しい地域サービスの考案・実行・評価・修正を通じて、地域における図書館のサービスの意義について理解することを目的とする。具体的には、大学が所在する松江市を対象とした地域サービスのプロジェクトを立ち上げ、実際に地域の図書館に提案し、実行していく。プロジェクトの実行においては、本学図書館のほか公共図書館の地域関連資料、インターネット情報資源、図書館員や地域の人々から得られた情報など多様な情報源を扱っていく。講義及び演習を組み合わせた総合的な演習を行うため、少人数のグループを複数構成し、２名の教員により指導を行う。
授業の到達目標	・図書館が直面している課題を解決するための新しい地域サービスを考案し、プロジェクトを立ち上げ、実際に地域の図書館へ提案、実行、評価する。 ・他人に図書館における地域サービスの意義を説明できるようになる。 ・プロジェクトの成果について、ICT を用いた効果的な情報発信ができるようになる。
授業計画	第１回　オリエンテーション：本科目の進め方について 第２回　地域における図書館の役割 第３回　島根県及び松江市の地域性 第４回　島根県及び松江市の図書館サービスの現状と課題 第５回　プロジェクトの管理と探究の作法：PDCA サイクル、探究モデル（Inquiry Model）等 第６回　プロジェクトの計画：見つける、手順を考える 第７回　プロジェクトの実行（1）：調べる、整理する 第８回　プロジェクトの実行（2）：まとめる 第９回　中間報告：点検評価 第 10 回　プロジェクトの実行(3)：改善する 第 11 回　プロジェクトの実行(4)：実行する 第 12 回　最終報告(1)：前半グループ 第 13 回　最終報告(2)：後半グループ 第 14 回　プロジェクトの評価：振り返る 第 15 回　図書館における地域サービスの展望
テキスト	なし
参考文献	授業で随時紹介する。
評価方法	・プロジェクト企画書（50%）、プレゼンテーション（50%）を課す。 ・上記に加え、授業への参加（質問、感想等）については適宜加点する。
自己学習に関する指針	日頃から地域課題とその解決に関わる図書館のサービスについて興味を持っておくことが必要です。冊子体資料のみならず、インターネットなども活用して、日常的な情報収集を心がけましょう。
履修上の指導・留意点	司書資格を取得するために必要な科目です。 本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、大学図書館での勤務経験を活かして司書資格取得に関する授業を展開する。

授業科目	読み聞かせの実践						
担当教員	岩田裕子、尾崎智子、内田絢子、沼田友美						
科目分類	専門基幹	授業時間	60	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020110
免許資格 関連事項							

授業の概要	学内の絵本専門図書館「おはなしレストランライブラリー」を学習の拠点として、絵本の選定と読みの練習を重ね、大学近隣の幼保園・小学校に出かけて行き、幼児・児童を対象に読み聞かせを実践する。本科目専用のノートと多面的な評価を取り入れながらＰＤＣＡサイクルを生み出し、実践を重ねながら着実に力をつけていけるように工夫する。
授業の 到達目標	①絵本の基礎的知識を身に付け、絵本を解釈・鑑賞する力を修得する。 ②絵本の読み聞かせの知識・技能を身に付け、心のこもった読み聞かせができる。 ③実践を通して、挨拶やお辞儀などの基本的なマナーを身に付ける。 ④グループで協力しながら取り組むことができる。
授業計画	第１回　ガイダンス、班編成 第２回　ポイントのまとめ「おはなしレストラン 10 カ条」の確認 第３回　絵本の選定、絵本の解釈、読み聞かせの練習 第４回　グループ練習 第５回　グループ練習 第６回　幼保園のぎ・のぎ小学校での実践１、待機組はライブラリーで模擬実践 第７回　幼保園のぎ・のぎ小学校での実践２、待機組はライブラリーで模擬実践 第８回　幼保園のぎ・のぎ小学校での実践３、待機組はライブラリーで模擬実践 第９回　幼保園のぎ・のぎ小学校での実践４、待機組はライブラリーで模擬実践 第 10 回　幼保園のぎ・のぎ小学校での実践５、待機組はライブラリーで模擬実践 第 11 回　幼保園のぎ・のぎ小学校での実践６、待機組はライブラリーで模擬実践 第 12 回　幼保園のぎ・のぎ小学校での実践７、待機組はライブラリーで模擬実践 第 13 回　幼保園のぎ・のぎ小学校での実践８、待機組はライブラリーで模擬実践 第 14 回　幼保園のぎ・のぎ小学校での実践９、待機組はライブラリーで模擬実践 第 15 回　幼保園のぎ・のぎ小学校での実践１０、待機組はライブラリーで模擬実践 まとめ
テキスト	「おはなしレストラン 10 か条」「作品解釈ノート」「実践記録ノート」など、授業で適宜配布する。 絵本は、おはなしレストランライブラリーの絵本を利用する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	授業態度・実践に取り組む姿勢（40%）、作品解釈ノート・実践記録ノートなどの活動記録（30%）、自己評価・期末課題の提出物（30%）を総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	「おはなしレストランライブラリー」に積極的に足を運び、絵本とともに過ごす時間を楽しんでください。
履修上の 指導・留意点	◇総合文化学科・地域文化学科合同で行います。 ◇授業時間以外の実践活動が入ります。 ◇活動用のおはなしレストラン専用ポロシャツ、絵本バッグの代金 3,000 円程度を徴収します。 ◇なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（小学校・特別支援学校）での勤務経験を生かして、読み聞かせの実践的な授業を展開する。

授業科目	Kids' English 入門						
担当教員	ラング・クリス						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020120
免許資格 関連事項							

授業の概要	幼児や児童を対象にした英語教育の基本的な理論、第二言語習得法、英語教育法を理解することを目標とする。理論と実践の両面からアプローチすることで理解を深めていく。子どもの第二言語習得の仕組みを学び、言語能力を向上させるためのいくつかの方法を学ぶ。幼児・児童英語教育のための教材・絵本を使った英語教育・手遊び・歌などの具体的な教材や指導法を学び、学んだ教材や指導法を学生同士で使って練習したり、発表したりすることで、実践力を身につける。
授業の 到達目標	
授業計画	第１回：言語習得のしくみとは 第２回：子どもの言語能力を伸ばすには 第３回：英語の歌 第４回：英語の歌と手遊び 第５回：絵本を通して他国の文化を理解する 第６回：絵本を使った英語教育 第７回：ビデオを使った英語教育 第８回： ゲームを使った英語教育 第９回： 基礎的な英語表現を学ぶ 第１０回： コミュニケーションに関連した英語表現を学ぶ 第１１回： フォニックスと発音 第１２回： フォニックスの教材 第１３回： 多読法について 第１４回： 多聴法について 第１５回：まとめ 定期試験
テキスト	小学校英語の教育法（アレン玉井光江） 大修館書店
参考文献	はじめての英語の歌（大野 恵美）学習研究社
評価方法	授業への取り組む姿勢・・・40 点 ペアワーク、グループワーク・・・30 点 定期試験・・・30 点
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験を生かして、より具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	Kids' English						
担当教員	ラング・クリス						
科目分類	専門基幹	授業時間	45	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020130
免許資格 関連事項							

授業の概要	初歩的な児童英語教育の体験を通し、子どもが英語に親しむことができる方法を創意工夫し、実践する力を身に付けることを目標とする。本学の絵本専門図書室「おはなしレストランライブラリー」などにおいて、地域の子どもを対象に英語絵本の読み聞かせを中心とした活動をグループで行っていく。授業では、活動内容の構成を考え、絵本の選本、読みの練習、歌、ゲーム、クイズなど、絵本と絵本の間に入れる繋ぎの準備と練習を行い、やさしい英語を使って子どもの興味を惹きつけながら交流する力を身に付けていく。
授業の 到達目標	子どもに英語を楽しく上達させる授業の構成と実践を身につけること
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　発表Ａに向けてその１～内容の構成と練習（本と歌） 第３回　発表Ａに向けてその２～内容の構成と練習（ゲームと活動） 第４回　発表Ａに向けてその３～グループで発表とフィードバック 第５回　発表Ａに向けてその４～グループで発表とフィードバック 第６回　発表Ｂに向けてその１～内容の構成と練習（本と歌） 第７回　発表Ｂに向けてその２～内容の構成と練習（ゲームと活動） 第８回　発表Ｂに向けてその３～グループで発表とフィードバック 第９回　発表Ｂに向けてその４～グループで発表とフィードバック 第 10 回　発表Ｃに向けてその１～内容の構成と練習（本と歌） 第 11 回　発表Ｃに向けてその２～内容の構成と練習（ゲームと活動） 第 12 回　発表Ｃに向けてその３～グループで発表とフィードバック 第 13 回　発表Ｃに向けてその４～グループで発表とフィードバック 第 14 回　ペア発表その１ 第 15 回　ペア発表その２と授業まとめ
テキスト	ストーリーと活動を中心にした小学校英語 著者：アレン玉井光江　小学館集英社プロダクション
参考文献	
評価方法	発表の取り組みと成果…60 点、ペア発表…10 点、最終レポート…10 点
自己学習に 関する指針	練習と暗記が必要
履修上の 指導・留意点	この授業は、授業時間以外の実施活動や週末に活動する場合もある。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験を生かして、より具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	観光と文化						
担当教員	工藤泰子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M3020140
免許資格 関連事項							

授業の概要	観光の現状、観光による文化創造、観光を取り巻く文化といった視点から、観光と文化の関わりについて学び、現代における観光の意義をふまえ、これからの学びにつなげていくことを目標とする。授業では、国内外の観光地の事例を挙げながら、「観光と地域振興」「観光の歴史」「文化の伝播」「ポストコロニアリズム」「観光イメージ」「多様化する観光資源」などをテーマに問題のポイントを講義する。
授業の 到達目標	・観光と文化の関わりについて、様々な角度から考えられるようになる。 ・観光の意義をふまえ、地域と観光のあり方に課題意識を持てるようになる。 ・多様な文化に関心を持てるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス、観光に関わる語 第２回　観光の現状 第３回　観光と地域振興 第４回　観光に関わる人々 第５回　しまねの観光①（文化資源） 第６回　しまねの観光②（行事・施設） 第７回　観光の歴史①人はなぜ旅をするのか 第８回　観光の歴史②近代旅行業の誕生 第９回　戦後観光のあゆみ 第 10 回　サステイナブル・ツーリズム 第 11 回　自然保護と観光 第 12 回　観光による文化創造①文化の伝播 第 13 回　観光による文化創造②ポストコロニアリズム 第 14 回　観光による文化創造③多様化する観光資源 第 15 回　地域の文化と観光 定期試験
テキスト	指定せず、適宜プリントを配布する。
参考文献	授業ごとに紹介する。
評価方法	授業への取組み状況（コメントシート・小テスト・課題提出を含む）60%、期末試験 40%の総合評価とする。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	観光と地域資源						
担当教員	工藤泰子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020150
免許資格関連事項							

授業の概要	本科目は、多様化する観光資源について理解し、地域資源を見直し、地域の文化を活かした観光の可能性を考えることを通して、地域に主体的に関わる姿勢を身につけることを目的とする。今日の観光は「観る」だけでなく、「学ぶ」「遊ぶ」「食す」「触れる」「体験する」など様々な行動や目的が含まれ、観光資源が多様化している。授業では、観光資源のさまざまな定義、分類方法を学習した上で、主に人文観光資源とその評価について講義する。ユネスコの世界遺産、無形文化遺産、記憶遺産など世界的に有名な資源から、国宝、重要文化財、そして、身近にある資源に目を向け、地域の現状を学び、文化資源の発見、活用する方法を考察する。授業では学外見学会を実施し、グループワーク、発表を導入することで、学習内容の理解を深める。
授業の到達目標	【目的】 ・多様化する観光資源について理解した上で、地域資源を見直し、文化を活かした観光の可能性を考察することを通して、地域に主体的に関わる姿勢を身につけることを目的とする。 【目標】 ・多様化する観光資源について理解する。 ・基本的な観光資源を習得する。 ・地域の文化資源を発見し、活用する方法を考えられる。
授業計画	第１回　ガイダンス、観光資源と観光対象 第２回　世界遺産①概要・海外 第３回　世界遺産②国内 第４回　さまざまな「遺産」 第５回　地域資源①島根の観光資源 第６回　地域資源②たたら製鉄 第７回　地域資源③たたらの文化・歴史と観光 第８回　地域資源④雲南市吉田町の取組み 第９回　地域資源⑤雲南市吉田町学外研修 第 10 回　地域資源の活用を考える（グループワーク） 第 11 回　人文観光資源 第 12 回　自然観光資源 第 13 回　観光資源の評価 第 14 回　さまざまな観光資源 第 15 回　山陰の地域資源の魅力 定期試験 ［注意］学外研修実施に伴い、上記内容の順番が入れ替わることがあります。
テキスト	なし。適宜プリントを配布する。
参考文献	授業ごとに紹介します。
評価方法	授業への取組み状況（コメントシート・小テスト・課題提出）６０%、期末試験４０%の総合評価とする。
自己学習に関する指針	

履修上の 指導・留意点	・履修希望者は、事前登録の上、必ず授業初日に出席してください。 ・学外研修を伴う授業のため、履修上限を 50 名とします。履修希望者が定員を上回る場合は、抽選・課題提出等により選考します。

授業科目	まちづくりと協働						
担当教員	竹田茉耶						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020160
免許資格 関連事項							

授業の概要	「持続可能性（Sustainability)」、「新しい公共」、「コミュニティの再生」などを主たるテーマに、「まちづくり」と「協働」の概念および、まちづくりにおいて協働が推進される社会的背景について学ぶことを目標とする。各地のまちづくりの具体的な事例を参照しつつ、地域住民・NPO・行政・企業・大学といった多様な主体が参画・連携したまちづくりのあり方について理解を深め、まちづくりにおける「協働」の意義と課題について議論する。
授業の 到達目標	（１）まちづくりの概念・意義を理解する （２）協働の概念・意義を理解する （３）協働によるまちづくりの実践例とその特徴を具体的に説明できる
授業計画	第１回　「まちづくり」とは？「協働」とは？ 第２回　わたしたちが生きる社会ー資本主義という社会システム 第３回　都市と農村の関係 第４回　「コミュニティ」の再生・創造 第５回　まちづくりの展開（１）ー住民運動の興り 第６回　まちづくりの展開（２）ーグローバリゼーションと持続可能性 第７回　まちづくりの展開（３）ー個人化する社会 第８回　まちづくりにおける協働の事例（１）貧困とまちづくり 第９回　まちづくりにおける協働の事例（２）コミュニティ・ビジネス 第 10 回　まちづくりにおける協働の事例（３）環境配慮型まちづくり 第 11 回　まちづくりの現場から 第 12 回　まちづくりにおける協働の事例（４）観光地における連携・協働 第 13 回　まちづくりにおける協働の事例（５）コミュニティ・デザイン 第 14 回　まちづくりにおける協働の事例（６）地域間交流・広域連携 第 15 回　まちづくりにおける協働　その意義と課題 定期試験
テキスト	なし。適宜、資料を配布します。
参考文献	『市民協働の考え方・つくり方』松下啓一著，萌書房 『都市と農村―交流から協働へ』橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫，日本経済評論社
評価方法	授業態度（10%）、レポート課題（20%）、試験（70%）
自己学習に 関する指針	日頃から社会や地域の課題に関心をもって、新聞やニュース等による情報収集や関連文献の講読を行ってください。
履修上の 指導・留意点	成績評価について、試験（論述形式）を 70%としています。毎回の講義に出席しているだけでは単位取得ができませんので、試験に向けた自己学習が十分にできる学生のみ履修してください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、自治体シンクタンクで、地域づくりや観光振興に関する調査・研究業務に携わっていた。その経験を活かし、まちづくり、観光振興について具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	観光まちづくり論						
担当教員	竹田茉耶						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020170
免許資格 関連事項							

授業の概要	「観光まちづくり」の概念や、その概念が登場した背景（まちづくりと観光が結びつくプロセス）について学び、観光まちづくりの現状や特徴、課題について議論することを目的とする。まずは、まちづくりと観光、それぞれの展開を理解した上で、両者が結びつくプロセスについて理解する。その上で、具体的な事例を参照しながら、「観光まちづくり」といわれている取り組みの現状や特徴を学び、これらの課題について議論する。
授業の 到達目標	（１）観光まちづくりが登場した背景を理解する （２）観光まちづくりの実践について理解する （３）観光まちづくりの特徴や課題について分析するための基礎的知識を習得する （４）課題の解決策について自分なりの考えを例示することができる
授業計画	第１回　「観光まちづくり」について考える 第２回　まちづくりとは 第３回　まちづくりの展開 第４回　観光の展開 第５回　観光と地域開発 第６回　地域のマネジメント 第７回　観光まちづくりの事例（１）歴史的町並み保存と観光 第８回　観光まちづくりの事例（２）商業活性化と観光 第９回　観光まちづくりの事例（３）ウチとソト 第 10 回　観光まちづくりの事例（４）移住と定住 第 11 回　観光まちづくりの事例（５）災害復興と観光 第 12 回　観光まちづくりの事例（６）景観形成と観光 第 13 回　観光まちづくりの事例（７）インバウンド 第 14 回　観光まちづくりの担い手 第 15 回　観光まちづくりの意義と課題 定期試験
テキスト	なし。適宜、参考資料等を配布します。
参考文献	『観光まちづくり―まち自慢からはじまる地域マネジメント』西村幸夫編著学芸出版 『観光まちづくりの力学』安村克己，学文社 『新たな観光まちづくりの挑戦』国土交通省総合政策局観光部（監修）、観光まちづくり研究会（編集），ぎょうせい
評価方法	授業態度（10%）、レポート課題（20%）、試験（70%）
自己学習に 関する指針	主として地域空間とそこに暮らす人々の営みと、観光の関係について学びます。日頃から地域の課題に関心をもって、新聞やニュース等による情報収集や関連文献の講読を行ってください。履修者数次第ですが、グループワークを行うことも検討しています。
履修上の 指導・留意点	成績評価について、試験（論述形式）を 70%としています。毎回の講義に出席しているだけでは単位取得ができませんので、試験に向けた自己学習が十分にできる学生のみして履修してください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、自治体シンクタンクで、地域づくりや観光振興に関する調査・研究業務に携わっていた。その経験を活かし、まちづくり、観光振興について具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	観光まちづくり演習						
担当教員	竹田茉耶						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020180
免許資格 関連事項							

授業の概要	本科目では、島根県または和歌山県を対象に、観光を活かしたまちづくりについて学び、まちづくりに観光が果たす役割について議論する。食や町並み、産業、文化など地域の特性を活かした各地の観光まちづくりの取り組みを実践的に学びつつ、地域社会、地域資源、地域経済と観光との関わりについて理解を深める。また、演習を通じて、地域社会が抱く課題の本質を捉え、解決する力を醸成することを目指す。
授業の 到達目標	（１）地域社会や地域資源、地域経済と観光の関わりについて理解する （２）観光がまちづくりに果たす意義を理解する （３）地域社会が抱える課題を発見し、解決する力を醸成する
授業計画	第１回　　地域社会の構造を知る（１）人口、産業、経済 第２回　　地域社会の構造を知る（２）歴史、文化、空間 第３回　　フィールドワークの方法と留意点 第４～13 回　観光まちづくりの事例調査・分析（フィールドワーク） 第 14 回　　フィールドワーク事後学習 第 15 回　　報告会
テキスト	なし。適宜、参考資料等を配布します。
参考文献	『まちの見方・調べ方―地域づくりのための調査法入門』西村幸夫・野澤康，朝倉書店
評価方法	授業態度（10%）、フィールドワーク（90%）
自己学習に 関する指針	日頃から地域の課題に関心をもって、新聞やニュース等による情報収集や関連文献の講読を行ってください。
履修上の 指導・留意点	学外での活動を含むため、履修者が多数の場合は履修制限をかけることがあります（履修者数は概ね 15 名程度を想定しています）。 成績評価について、授業への取組み状況（学外活動・発表・期末レポート）により総合的に評価します。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、自治体シンクタンク（地域づくりや観光振興に関する調査・研究）での経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	人と地域の調査法						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020190
免許資格 関連事項							

授業の概要	社会のあらゆる場面での人間心理や行動、あるいは社会現象や社会的問題などを捉えて理解するための基礎的な知識と技術（調査や観察、インタビューなどを通して、テキストを含めた質的及び数量的データを集め分析する）を修得することを目標とする。また、自己、他者、地域や社会につながる問題をより身近なものとして感じる力や、人々の行動を論理的に思考したり、物事を実証的に検証する視点を養い、日常生活や社会生活での問題解決に向けての応用力を育む。
授業の 到達目標	（１）自己、他者、地域や社会につながる問題をより身近なものとして感じる力がつきます。（２）調査の基本的な考え方、方法と手順が理解できるようになります。（３）人々の行動を論理的に思考したり、物事を実証的に検証する視点が身につきます。
授業計画	第１回　全体オリエンテーション：授業概要、進め方。 第２回　「社会」や「人」を知るために必要なこと。 第３回　いま起こっていることを調べよう。社会の動向、人の心理や行動に興味をもとう。 第４回　調査の基礎１：データのリテラシー、対象の理解。いろいろなやり方を学ぼう。 第５回　調査の基礎２：観察し、記述することから始めよう。 第６回　調査の基礎３：人に尋ねてみる、回答をもらう。収集したデータを分析してみる。 フィールドワークの実際。 第７回　調査の基礎４：質的分析とは何か 。テキスト（文章）データの整理。 第８回　実際にやってみよう１：テーマの設定。企画・設計。 第９回　実際にやってみよう２：調査の準備。 手順の検討。 第 10 回　実際にやってみよう３：調査を体験する。 実施。 第 11 回　実際にやってみよう４：データの整理。コーディングなど。結果の検討。 第 12 回　実際にやってみよう５：報告書の作成。 基本的な図表の作成。 第 13 回　発表１：人に伝える技術を学ぼう。 第 14 回　発表２：効果的な呈示の仕方を工夫しよう。 第 15 回　授業まとめ
テキスト	なし。必要に応じ、資料やプリントを配布します。
参考文献	授業内容に合わせ、講義内で適宜紹介します。
評価方法	成績は、課題の提出（80%）、取り組む姿勢（20%：発表や質問･コメント）を考慮し、総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	学習（経験）したことを自分できちんとメモ（覚え書き）し、記録をすること。
履修上の 指導・留意点	１年次にコンピュータ・リテラシーⅠおよびⅡの単位を取得済みであること。

授業科目	観光フィールドトリップ						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020200
免許資格 関連事項							

授業の概要	学生が地域の文化を学んだ上で、海外からのゲストに対し、英語でその知識と魅力を伝えることを目標とする。事前に学習し、そこで得た知識をどう伝えるかを班編成で考え、行動プランを決定し、実際に県内のいくつかの観光スポットに出向き、ガイドとして英語で海外からのゲストに対し案内していく。その体験を英語のニュースレターにまとめていくことによって英語能力の向上をはかるとともに、海外からのゲストとの交流を通して、海外の文化にも触れ、異文化に対する理解と興味を得ていく。
授業の 到達目標	・ゲストとの交流を通して、ほかの文化をより理解できる ・島根の観光名称と文化により関心を持つ ・実際のガイド体験を通して、英語能力を向上させる ・体験をもとにレポートを作成し、それをもとにニュースレターを作成する
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　ガイドすることの留意点・注意点 第３～５回　事前学習（行先の確認、説明の練習、ゲストとの出発前交流） 第６～10 回　一日目のガイド、宿泊先での交流 第 11～15 回　二日目のガイド 課題レポート提出
テキスト	プリントを配布する
参考文献	適宜に配布する
評価方法	事前の調べ　２０％　ガイド実践　４０％　レポートとニュースレター作成　４０％
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（ALT、中学校・高等学校教諭）での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	地域文化プロジェクトⅠ						
担当教員	地域文化学科専任教員						
科目分類	専門基幹	授業時間	120	配当年次	3	配当期	通年
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	3	授業コード	M3020210
免許資格 関連事項							

授業の概要	卒業研究のテーマを意識しながら、学内における演習（文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション）、学外でのフィールドワークなどを通して、各自の専門分野に関する学術的理解を深め、地域文化に主体的に関わる姿勢を身につけることを目標とする。同時に、卒業研究に必要な、各専門分野における地域文化を対象とした研究アプローチ方法について修得する。授業は、指導教員の専門分野をベースにして地域文化に関わる共通テーマを各ゼミで設定し、少人数の演習形式で実施する。授業を通して、専門分野に関する様々な問題について関心を広げ、卒業研究への橋渡しとしていく。
授業の 到達目標	①主体性と協調性をもって研究に取り組むことができる。 ②研究テーマに従って、文献その他の情報を的確に収集し、それに基づいて論理的に考察することができる。 ③研究の成果を、チームで効果的に発表することができる。 ④4 年次の「地域文化プロジェクトⅡ」につながる研究課題を見出すことができる。
授業計画	この授業は、通年で週に 2 コマ連続で行い、基本的にゼミ単位で指導教員のもとで活動する。 【春学期】1 回につき 180 分 第１回　ガイダンス 第２～４回　研究テーマの設定 第５～14 回　文献講読、情報収集、フィールドワーク 第 15 回　春学期のふりかえり 【秋学期】1 回につき 180 分 第１回　ガイダンス 第２～９回　考察、フィールドワーク、ディスカッション 第 10～11 回　発表会の準備 第 12～14 回　地域文化プロジェクトⅠ発表会発表（大講義室） 第 15 回　地域文化プロジェクトⅠ発表会のふりかえり レポート提出
テキスト	各ゼミで用意する。
参考文献	各ゼミで用意する。
評価方法	学年末レポート（発表を含む）100%
自己学習に 関する指針	3 年次の中心となる授業であり、かつ 4 年次の卒業論文につながる重要な授業です。授業時間以外も関連する読書や体験の時間をたいせつにしてください。
履修上の 指導・留意点	ゼミ単位で課外活動やフィールドワークが入り、費用のかかる場合もあります。

授業科目	地域文化プロジェクトⅡ						
担当教員	地域文化学科専任教員						
科目分類	専門基幹	授業時間	120	配当年次	4	配当期	通年
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	3	授業コード	M3020220
免許資格 関連事項							

授業の概要	大学四年間の学びの集大成として、卒業論文を作成することを目標とする。授業では、これまで学修した知見をもとに、各自または各ゼミで研究のテーマを設定し、「地域文化プロジェクトⅠ」において学修した専門分野の理論、研究アプローチ方法を用いながら、卒業研究に取り組む。最終的には、学生ひとりひとりが論文を作成し、卒業研究報告会にて発表を行なう。論文の作成行程を通して、主体的な研究姿勢、論理的な文章表現力、プレゼンテーション力の向上を目指す。
授業の 到達目標	①研究テーマをみずから設定し、主体的に研究に取り組むことができる。 ②専門分野の研究方法や理論に従って文献を読み、情報を収集・分析し、フィールドワークを行うことができる。 ③研究の成果を、口頭で効果的に発表することができる。 ④研究の成果を、卒業論文として論理的な文章にまとめることができる。
授業計画	この授業は、通年で週に２コマ連続で、３年次の「地域文化プロジェクトⅠ」と同じ時間帯に行う。 基本的にゼミ単位で指導教員のもとで活動する。 【春学期】１回につき 180 分 第１回　　ガイダンス 第２～４回　研究テーマの設定 第５～10 回　文献講読、情報収集・分析、フィールドワーク 第 11 回　　中間発表会の準備 第 12～14 回　地域文化プロジェクトⅡ中間発表会発表（大講義室） 第 15 回　　春学期のふりかえり 【秋学期】１回につき 180 分 第１回　　ガイダンス 第２～７回　卒業論文の作成 第８～９回　地域文化プロジェクトⅠ発表会聴講（大講義室） 第 10～11 回　発表会の準備 第 12～14 回　地域文化プロジェクトⅡ発表会発表（大講義室） 第 15 回　　地域文化プロジェクトⅡ発表会のふりかえり 卒業論文提出
テキスト	各ゼミで用意する。
参考文献	各ゼミで用意する。
評価方法	卒業論文（発表を含む）100%
自己学習に 関する指針	大学での学びの集大成となる授業です。時間を確保して、卒業論文の作成を着実に進めてください。
履修上の 指導・留意点	ゼミ単位で課外活動やフィールドワークが入り、費用のかかる場合もあります。